

学生
×
デザイン

KOIN Tシャツデザインコンテスト

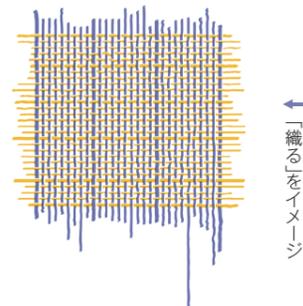
学生・若者のパワーで京都を活性化

KOINのイメージデザインをプリントしたTシャツができました!!

学生の鋭い感性を活かしたデザインの中で、
京都の街を活性化させる!
そんなコンセプトで始まった
「KOIN Tシャツデザインコンテスト」。
数多くの応募の中から、
最優秀賞に選ばれた学生とその作品の中で
表現された思いなどを紹介します。



最優秀賞受賞
吉田 百花さん
京都美術工芸大学 4年生



「織る」をイメージ

たて よこ 経糸、緯糸が紡ぎだす京都の未来デザイン!

大学でグラフィックデザインを専攻しているという吉田さん。「学んできたスキルを試したくて」と、国内の様々なコンテストに応募し、京都中央信用金庫が主催する「中信デザインコンテスト2021」では審査員特別賞を、京都・花灯路事業の「第13回京都・花灯路創作灯デザインコンペ」では、竹炭と銅板を組み合わせ、隙間から漏れ出る光で京都の夜を表現した作品が、見事、最優秀賞に選ばれ会場内に設置された。KOIN「Tシャツデザインコンテスト」も、ただデザインを提案するだけでなく、実際にTシャツを作成し、イベントなどでスタッフが着てくれることに魅力を感じたという。「KOINを利用している友だちに、私の作品によって自慢できると思った」と笑顔を見せる。

今回、「織る」をコンセプトにしたデザインが最優秀賞に選ばれた。一本の糸が経(たて)と緯(よこ)に織り重なって布が紡ぎあげられていく…。

KOINを象徴する黄色と京都のシティーカラーの紫色、一見相反する二つの色が混じり合い、調和することで、「多様な個性が集い、新しい価値が生み出される。そんな未来像をイメージした」と吉田さん。経と緯の糸は京都の基盤の目を表しているという。大学に入るまで、自分が暮らす街についてほとんど関心がなかったそうだが、「周りを見渡すと、大小いろんな通りがあって、歴史的な建物もたくさん残っている。コンテストでの作品づくりを通して、京都って魅力的だなって気づかされた」と振り返る。

新聞などで受賞を知った大学の教員や仲間から声をかけられ、学内で「ちよつとした有名人になった」という。デザインの中で人に感動を与えたい。コンテストでの受賞をステップに、吉田さんのチャレンジはまだ続く。



塚本理事長から表彰盾を授与

KOIN Tシャツデザインコンテスト 入賞されたみなさま

| | |
|--------|----------------------|
| 最優秀賞 | 吉田 百花さん (京都美術工芸大学) |
| 理事長特別賞 | 山本 周雅さん (京都大学) |
| 優秀賞 | チェ ジウオンさん (京都精華大学) |
| | 矢田 恵二郎さん (京都工芸繊維大学) |
| | 呂 美紅さん (京都精華大学) |
| 特別奨励賞 | 谷本 幾葉さん (銅駝美術工芸高等学校) |

KOINの受付 やっています



高木 惇平さん
京都大学 工学部
4年生



突然ですが、僕の趣味をご存じですか?そうです釣りなんです!
「釣りって待ってるだけじゃん何が楽しいの」って思っている方にこそ伝えたいのですが、釣りって実は奥が深く、狙った魚を釣上げる為に自分で仕掛けを考えて、釣れなかったら原因を改善して、そしてついに狙った獲物を釣上げる。その瞬間が1番楽しいんです。まずは仕掛けて、そして改善して、最後に目標に到達する。この楽しさって起業にも共通しています。そんなことを考えながらKOINで釣りをコンセプトにしたビジネスコンテストを企画させて頂いたりしています。

この文章を見てくださっているあなたはどんな魚を狙いたいですか?
ぜひKOINに来て教えてください!

HIE ちえクロス ROSS

「知恵と融合」から生まれる
未来のイノベーション

Spring
2022.春
3号

Special Edition

令和2年度「スマート社会実装化促進事業補助金」 認定企業をピックアップ

や空間美、癒し、団らんなど使い手の思いが付与されて、ソファーとしての価値が高まっていく。「同じように、デジタルデバイスという最先端ツールが、私たちが心に持っている情緒や感情に訴えかけることで、日常の暮らしをより人間らしいものに変えてくれる…。そんな世界を実現していきたい」。家具のまち、夷川に拠点を構えるのも、こうした思いが根底にあったからだと振り返る。

テクノロジーと人の佇まいが 無為自然に調和したスマートホーム



森口 明子さん 弓削 智恵美さん 大木 和典さん

空間に溶け込む最先端のテクノロジー

AI、IoT、ARやVR、5G…、テクノロジーの進歩は確かに私たちの生活を豊かに、便利なものにしてくれたが、一方であらゆるものがオートメーション化され、無機質でスピードや効率ばかりが重視されるようになっていく。

「人とテクノロジーの接点を“calm”、つまりもっと穏やかなものにしていきたい!」と大木和典さん。同社の代表プロダクトとなる「muiボード」は、こうしたスタッフ全員の情熱から生まれた、スマートホーム向けのIoTデバイスだ。ぬくもりを感じられる木のパネルの中に、ハブ(センター・コンソール)機能が集約され、家の灯りやスピーカーの制御はもちろん、手書きメッセージやボイスメッセージの送受信などの操作がワンタッチでできる。スマホやタブレットを使わない、シンプルで、まさに空間の一部に溶け込むような新しいコンセプトのインターフェイスといえるだろう。

エモーショナルな体験をデジタルの付加価値に

muiボードの開発を通じてこれまで培ってきた技術スタックをベースに、多種多様な企業と連携し、スマートプロダクト向け商品やサービスの開発支援にも積極的に取り組んでいる。家の柱に子どもの身長を刻んで、その成長を喜んだ経験はないだろうか?ペンタブレットなど独自のデジタルソリューションを提供する株式会社ワコム(本社:埼玉県)とのアライアンスで開発した「柱の記憶」をコンセプトに、デジタルペンと柱が有機的につながり、クラウドを通して家族と共有した時間がよみがえるプラットフォームを開発。現在、JIBUN HAUS.株式会社との協業で開発した住宅「muihaus.」にて「時を超えて家族の絆を深める家」というコンセプトで商品化されているという。

「muiボードで体験されているような穏やかなインターフェースは、家具に対する考え方と似ている」と大木さん。例えば、ソファーには「座る」だけでなく、寝そべったりものを置くこともできるし、そこに心地よさ

一人ひとりの行動変容につなげる技術開発

2050年のカーボン・ニュートラル社会の実現に向け、改めてHEMS(ホーム・エネルギー・マネジメント・システム)やZEH(ゼロ・エネルギー・ハウス)など各家庭での省エネの取り組みに注目が集まっている。今回の「スマート社会実装化促進事業補助金」では、ECHONET Liteに対応したmuiボードを設計開発し、スマート・メーターと連携することで、家庭内の消費電力の見える化を実現した。また、世界共通のスマートホームの標準規格で、AmazonやGoogleなどグローバル企業200社が参加するMatterのワーキンググループに日本企業として先駆けて参加。エネルギー業界のトレンドや技術のスタンダードを見据え、ノウハウと知見を蓄積することにつながっている。

今後、人とデジタルテクノロジーの関係はますます複雑なものになっていくだろう。「インターフェイスの領域で、つながることの意味、つながった先でどんな感動が体験できるかを考えながら、人が人らしくあり続けるサービスをこれからも提供していきたい」と大木さん。テクノロジーが人の暮らしと調和していく…、まさに同社が理念とする「無為自然」=「mui」の哲学がそこに体現されている。



木のぬくもりが伝わるmuiボード

mui Lab株式会社

NISSHA株式会社の社内ベンチャー制度から創業し、2019年4月に独立したmui Lab株式会社。人の暮らしに調和したデザイン性の高いIoTデバイスを開発し、私たちの琴線に触れるようなスマートホーム体験を提供している。

京都市中京区夷川通柳馬場東入俵屋町295番地1
TEL:075-708-8660
<https://muilab.com/>

学生 起業

KOINビジネス実践ラボ

起業を目指す学生を応援!

起業を目指す学生を対象に、ビジネス実践資金として最大50万円を提供し、自身のビジネスアイデアの実践に取り組んでいただく「ビジネス実践ラボ」。昨年度の同プログラムで採択を受け、ビジネスの実践に取り組んだ2組の学生起業家をご紹介します!



ボードゲームで学ぶ株式投資! 遊びで知的好奇心を楽しく刺激

—ビジネスのアイデアを思いついたきっかけは?

静木 京都大学の学生はみんな勉強好きというイメージがあるかもしれませんが、やっぱり勉強は嫌い、面倒だと思っている人が多いです。子どもの頃、何か新しいことを覚えるたびにワクワクした経験ってありませんか?押しつけではなく、僕たちの共通の趣味であるボードゲームを通して、学びの楽しさや喜びを取り戻せないかと考えたのがきっかけです。

—そもそも、なぜ「株」に注目したのですか?

林 僕が株式投資をやっている、知的ゲームとしてとても面白いと感じていました。でも、周りを見ると、なんか難しそうとか危なそうとか漠然と思っている人も多くて。じゃあ、株式投資をボードゲームで学べるようにすれば、そんなマイナスイメージを変えられるんじゃないかって、頭の中で株式とボードゲーム、二つのキーワードが結びついたんです。

—ビジネス実践ラボに参加してどうでしたか?

林 プレゼン審査会の前に開催された「ビジネス基礎講座・ブラッシュアップ支援」で、中小企業診断士や税理士の先生から「誰にどうやって売っていくのか?」と言われてハッとしました。プロダクトを作ることはばかりに夢中で、マーケティングの視点が抜けていたんです。専門家のアドバイスをきっかけに、ボードゲームの愛好家が集まるイベントに参加したりクラウドファンディングを立ち上げたり、販路の開拓にも積極的に取り組むことができました。

静木 僕がKOINの受付を手伝ってたりして、もともと起業に関心があったので、ビジネス実践ラボは絶好のトライアルチャンスだと思いました。最大50万円の実践資金も魅力的でしたし。採択された後は、月に一度、同じようにアイデアが採択された学生と進捗状況を報告し、ビジネスを実践する中で生まれた課題や悩みを共有し合う機会が設けられているのですが、いろんな場所にどんどん出かけて自分の商品を発信している人がいたり、彼らの考え方や行動力に僕たちも刺激を受けることが多かったですね。



3月に開催したKOINマルシェに出店



林 聖悟さん 京都大学大学院 修士課程2年生
静木 銀蔵さん 京都大学大学院 修士課程2年生

—ものづくりの苦労はありましたか?

林 出来上がった試作品をプレイしてもらおうと、必ずしもみんな楽しいとは思っていないように感じました。何が足りないのだろうって。例えば、定期的にお金が入ってくる配当金みたいな仕組みがあれば、長期的戦略が立てられてゲームが面白くなるよねと言ってくれた友人がいて、そういったプレイヤー一人ひとりの意見を聞きながら、自分では気づかなかったアイデアを取り入れて内容をブラッシュアップしていきました。

—これからの目標は?

静木 今年4月に独自のECサイトを立ち上げ、オンラインで受注できる仕組みを整えました。大人だけでなく、小さい子どもたちにも「学びの楽しさ」を知ってもらいたいという思いから、株トレの開発で培ったノウハウを活かし、夏までには算数や英語をボードゲームで勉強できる新商品をリリースする予定です。ぜひ楽しみに!

—最後に、これから起業を目指す学生諸君に一言!

静木 スタートアップで会社を立ち上げて、人生のすべてをそっちに全振り…みたいな方法ではなく、自分たちのライフスタイルを大切にしながら、少額の資金で新しいことにチャレンジするというのが、今の起業の一つのトレンドになっています。その腕試しの場として、ビジネス実践ラボは最高の舞台だと思います。

林 起業に関心はあるけれど、一歩がなかなか踏み出せないという人も多いと思います。ビジネス実践ラボでは同じ志を持つ仲間と、切磋琢磨しながら前へ進むことができます。自分が頭に描いていたアイデアが形になったときの感動を、ぜひ味わってほしいです!

京大ボドゲ製作所

<https://kyodaigame.base.shop/>

「遊びから知る。楽しく学ぶ」をコンセプトに、ボードゲームを使った知育玩具を開発中!



色とりどりのアイデアで 捨てられる野菜の居場所づくり

—余剰野菜×絵具という発想はどこから?

山内 実家が農家をやっているんです。コロナ禍の影響で大学生活すべてがオンラインになり、それまでは海外のサステナブルの取組に関心があって、外ばかり見ていたのですが、時間があふれ余る中でふとおじいちゃん・おばあちゃんって何やってるんだろうと内側に目を向けると、形や色がちょっと悪いというだけで廃棄されている野菜がたくさんあることに気づきました。規格外の野菜を食べる…みたいな事業はたくさんあるので、私が子どもと関わるのが好きなのと、野菜と言えば「色」が魅力という思いから、それで絵を描いて、子どもたちと一緒に楽しめたら素敵だなって考えました。

—ものづくりの経験は?

山内 もちろん、初めてです。最初、大量の野菜をミキサーで細かく刻んで、それをパックに詰めて冷凍保存し、絵具に加工するときに取り出して使っていたのですが、匂いはするし、うちの冷蔵庫は占領するし、家族にはずいぶん迷惑をかけましたね(笑)。でもいろいろ試しているうち、同級生や後輩、芸術大学に通う友だち、また野菜ソムリエや農家の人たちが、「面白いことやってるね」って仲間になってくれて、捨てられていたものを輝かせるという取り組みに共感してくれたんだと思います。日本画で使う岩絵具と同じように、野菜も乾燥させてパウダーにすればいいよ…とか専門的なアドバイスをくれたりして、みんなで一つずつ作り方を学んでいきました。

—ビジネス実践ラボに参加して得たことは?

山内 加工を委託する費用をまかなえたらと思ったのと、今まではボランティアで地域のイベントなどに参加することが多かったのですが、これから持続可能な事業として続けていくために、きちんと収益につなげる仕組みを学ばなければと考えたことが、参加を決めた動機です。「ビジネス基礎講座・ブラッシュアップ支援」では、ビジネスの専門家のアドバイスを



子ども向けワークショップの一幕



大竹 淳介 京都知恵産業創造の森
山内 瑠華さん 立命館大学4年生

受け、余剰野菜を絵具として使うだけでなく、例えば野菜を乾燥させたときに生体水の利用方法に目を向けることで新たなサーキュラーエコノミーにつながるなど、私たちのビジネスの価値を高めるヒントをたくさんもらいました。

—現在の取り組みを教えてください。

山内 野菜絵具の魅力伝える体験イベントのほか、新たにファッションチームを立ち上げ、タマネギやカカオの皮を染料として使って古くなった洋服を染めて、リユースを楽しんでもらう事業を始めました。また、今まで何でも絵具にしようと思っていましたが、やっぱり野菜は食べるのが一番だと考え、餃子店と一緒に廃棄されるキャベツの外葉や傷のあるトマトを使った野菜餃子を開発するなど、フードロスで困っている飲食店向けに新メニューを提案する取り組みも行っています。今後は、野菜を乾燥させたパウダーを粘土や石けんに加工したり…、まだ誰もやっていないことにチャレンジしていきたいですね。

—後輩にメッセージをお願いします。

山内 最初、社会貢献的な取組はビジネスになりにくいと思っていたのですが、ビジネス実践ラボでの活動を通して、自分のアイデアを事業化していく道筋を学ぶことができました。夢と本気で向き合うみんなと出会ったのも大きな収穫だったと思います。私たちは「捨てられる野菜の居場所づくり」をビジネスの理念にしていますが、世の中をこんな風に変えていきたい!という思いを伝えることで、サポートしてくれる仲間が増えていきました。ぜひ、多くの人に起業の魅力を体験してほしいと思いますね。

Lápiz Private

<https://www.lapizprivate.com/>

余剰野菜を使って、絵具や染め、新メニュー開発など、SDGsを身近に感じる取り組みを展開。



今年度も引き続き実施します!
多くの学生からのチャレンジを
お待ちしております!

KOINビジネス実践ラボ

募集期間 | 2022年6月6日(月)~7月26日(月)

応募説明会 | 2022年7月4日(月) 18:00~19:00

対象 | 京都府内の大学・大学院・専門学校に所属する学生

実践資金 | 最大50万円(プレゼン審査の結果により金額を決定します)

プログラム

8~9月 | ビジネス基礎講座・ブラッシュアップ支援(2~3回を予定)

9月中旬 | ビジネスプランのプレゼン審査会

10月 | 採択者発表・実践資金の提供・ビジネス実践開始
実践期間中は月1回程度の進捗報告会を実施予定

2~3月 | 成果報告会

詳細は後日KOINのWEBサイトにてお知らせします! <https://open.kyoto/> お問い合わせ:産業人材育成推進部 ikusei@chiemori.jp